

2020全日本高等学校体操競技選抜鯖江大会

期日：令和2年10月22日(木) ～ 25日(日)

場所：鯖江市総合体育館

選手：北園丈琉（3文C） 末次耕太郎（3文C）

近藤郁登（3文C） 田部壮一郎（3文C）

矢野雄大（3文C） 川上翔平（2文C）

戎耀太（1文C）

結果：団体総合優勝【北園丈琉・末次耕太郎・田部壮一郎・川上翔平】

優勝【川上翔平・板橋悠迅・北本千真・戎耀汰】

北園丈琉：個人総合・種目別 平行棒 優勝 鞍馬・つり輪 2位

川上翔平：個人総合 4位 種目別 跳馬 2位 鉄棒 3位

田部壮一郎：個人総合 6位 種目別 床・つり輪 3位

矢野雄大：種目別 平行棒 2位

末次耕太郎：個人総合 15位

近藤郁登：個人総合 59位

10月末、福井県鯖江市で、新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止となったインターハイの代替大会が開催されました。

この大会は全国大会ですが、各地方で予選大会を行うことができないため、3月に予定されていた選抜大会の出場権利保持者、また昨年のインターハイ決勝進出校に出場枠を与え大会が行われました。コロナ禍の中、開催されるということで、試合は、演技中の声援やハイタッチの禁止、一般観客席は試合中の高校の保護者（2名まで）のみ入場可など、さまざまな条件がありました。また有料ではありますが、公式のライブ配信があり会場でも試合を観ることができるなど、コロナの感染予防の徹底が見事になされた運営でありました。

また、会場には地元メディアだけでなく、主要キー局の取材陣も多く来ており、コロナ禍の中で開催されるスポーツイベントとして注目度の高さが伺えました。

今年度はスタートから学校の授業ができないという状況で、当たり前のようにクラブ活動は禁止でありました。全国の高校生も同様でありましたが、わが校も春先の自粛期間はまともな練習ができず、今年度のスタートは厳しいものとなりました。そのため、自粛期間明けの練習再開後も思うように体が動かず、次々と試合が中止になる中で生徒たちは練習へのモチベーションを保つのが難しかったと思います。さらに、高校生のメインイベントであるインターハイの中止は精神的なダメージも多く、一時は心が折れてしまったのかと思うような期間もありました。しかし、3年間、6年間の思いを胸に折れかけた気持ちを奮い立たせ、厳しい練習に打ち勝つことができていました。最初で最後のチーム戦となるこの試合にはその思いをぶつけ、会心の演技をしてくれたと思います。

そして結果、見事に団体・個人総合優勝という圧倒的な勝利で大会を終えることができました。これまでになかったような変化が次々と起こってしまった今年に、出場選手だけでなく、他の部員も一丸となって手にした優勝は、必ず後輩たちに受け継がれていくと思います。



令和2年度 大阪新人大会

期日：令和2年11月22日(日)

場所：丸善インテックアリーナ大阪（サブアリーナ）

選手：板橋悠迅（2文C）川上翔平（2文C）

北本千真（2文C）長澤空良（2文C）

石橋祐輔（1文C）戎耀汰（1文C）川村一琉（1文C）

結果：団体総合

優勝【川上翔平・板橋悠迅・北本千真・戎耀汰】

個人総合

優勝 川上翔平 権利保持者

2位 戎耀汰 選抜権利獲得

4位 板橋悠迅 選抜権利獲得

5位 長澤空良 選抜権利獲得

6位 北本千真 選抜権利獲得

8位 石橋祐輔

9位 川村一琉

先月、大阪新人大会が行われました。

試合結果は上記のとおりです。すでに権利を勝ち取っていた1名に加え新たに4名が権利を勝ち取りましたので、下記の5名が本校より選抜大会へ出場することとなりました。

板橋悠迅（2文C）川上翔平（2文C）

北本千真（2文C）長澤空良（2文C）戎耀汰（1文C）

第74回全日本体操個人総合選手権兼第74回全日本体操種目別選手権

期日：令和2年12月10日～13日

場所：高崎アリーナ（群馬県）

選手：北園丈琉（3文C）、末次耕太郎（3文C）

田部壮一郎（3文C）、川上翔平（2文C）

結果：【予選】北園丈琉 7位、上翔平 33位、田部壮一郎 59位、末次耕太郎 60位

【決勝】北園丈琉 個人総合 準優勝、鉄棒 3位

この全日本体操選手権という大会は、高校生から社会人まで幅広い選手に出場機会が与えられ、真の日本チャンピオンを決める大会です。本来、春に開催される大会ですが、延期されていました。

高校生からは5人出場していましたが、そのうち4人が本校の生徒でありました。

予選1班目の末次君、田部君、川上君は高校生らしく若いエネルギーを存分に発揮し、素晴らしい演技をしてくれました。末次君、田部君は清風として出場する最後の大会であり3年生の意地を見せてくれました、川上君は男子選手としては最年少の出場でありながら、プレッシャーをはねのけて失敗のない演技で予選を終えました。

予選の2班で演技をした北園君は、1種目目の鞍馬でいきなり2回落下をしてしまい、優勝を狙っていましたが予選通過も厳しい状況に追い込まれました。しかし、そこから5種目で脅威の巻き返しを図り、最終順位は7位で予選を終えました。予選を終えて、わが校からは、北園君が決勝進出となりました。

決勝も北園君は、予選と同じ鞍馬からのスタートでした。鞍馬のスタート前、予選での失敗が脳裏をよぎり緊張が高まりましたが、見事通しきりそこからはゾーンに入ったかのように好演技を連発します。続く跳馬では今大会から取り入れた大技ヨー2も、ピタリと着地をきめ、トップ集団に迫ります。得意種目の平行棒、鉄棒でも好演技そして高得点をマークし、最終種目の床ではほぼ着地をまとめ、高校生としては史上最高の準優勝という順位で今大会を終えました。北園選手は予選の1種目目からは考えられないような大逆転で東京五輪代表選考へ大きく前進しました。

末次君、田部君、川上君3人も結果としては予選落ちでしたが、高校生は出場することも難しいと言われる全日本選手権で、堂々とした演技ができたことは大きな収穫となりました。

